

HOLLAND HOUSE

デザインを通じて佐賀とオランダを語る10カ月

2018.3.17 - 2019.1.14

オランダハウスとは？

「肥前さが幕末維新博覧会」のバビロンのひとつとして、旧佐賀銀行呉服町支店とわいわいコンテナ2、水辺（クリーク）を利用して誕生したギャラリーとカフェ、水辺のテラスです。

ダッチギャラリー

昭和9年に建設された歴史ある建築物を、「Adaptive re-use」と呼ばれるオランダの適応型再利用の考え方を取り入れ、ギャラリーとして蘇らせました。期間中、オランダ人クリエイターが佐賀市内に滞在し、創作活動を行うとともにワークショップや作品展示などを行います。

SUGAR ROAD MARKET

オランダを通じて西洋の菓子文化が佐賀に伝わったことをモチーフに、わいわい!コンテナ2にカフェを設置。オランダの伝統菓子である「アップルタルト」や「ストローブワッフル」をお楽しみいただけます。

水辺テラス

オランダハウス南の裏十間川を望む水辺で、船着き場のあるテラスを整備し、和舟やカヤックの乗船体験や各種多彩なイベントを開催します。

オランダは幕末維新期には佐賀の近代化に影響を与え、現在ではクリエイティブ連携・交流協定(佐賀県とオランダ大使館)を結び、また、2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける佐賀県のホストタウン登録国となっています。佐賀県と様々な交流が進む「オランダ」と、デザインやアート、食、水辺などの交流を通じ、オランダのことを身近に感じ、オランダの人たちとつながりを深め、新たな未来を創っていく。そんな場所になることを目指しています。

Waterside

オランダハウスの水辺

オランダハウス南には、明治維新の時代たくさんの舟が行き交っていたクリーク(裏十間川)が流れています。佐賀とオランダ双方の土地に発達し、生活に根付いたこの水路網を、日常的に使い、楽しむための様々なプログラムを、クリークの活用保全を推進する団体「さがクリークネット」と共に実施していきます。



船着場

水辺テラスに出現した船着場では、歴史ある裏十間川(約400m)を乗船できる定期的な和舟運航・カヤック体験を行います。
※体験料は¥500/人(保険代)となります(要予約、雨天中止)その他、SUP体験、川床イベントなど、クリークを気軽に体験できるアクティビティも企画しています。



水辺テラス

心地良い水辺のテラスでは、専用屋根を使った出店やクリークBAR、ワークショップなど、各種イベントが行われます。クリークマルシェの開催では、地域の店舗が活躍する水辺の市場を創ります。



さがクリークネット

SAGA CREEK NET

さがクリークネットとは？

さがクリークネットは、「暮らす」「使う」「維持する」をコンセプトに、クリークに寄り添った暮らし・文化の再生をめざしている団体です。

オランダハウスオープンに寄せて

2017年の秋頃、佐賀のクリエイターの皆さんと共にオランダを訪ねました。オランダの人々の振る舞いには独自の「寛容さ」があって、古いものにリスペクトしつつ、そこに新しい価値観を上手に組み合わせて、未だかつて見たこともない世界観を生み出している風景がとても印象的でした。

オランダハウスでは、アート・デザイン、水辺、食といった様々な分野で、オランダと佐賀のコラボレーションによる活動が展開されます。オランダの人と文化<Dutch Design>に触れることで、その先の佐賀の未来に、今まで思いつきもなかったような新しい視野が開けるような気がしてなりません。



西村 浩 Hiroshi Nishimura
建築家。1967年佐賀県生まれ。東京大学工学部土木工学科卒業、東京大学大学院工学系研究科修士課程修了後、1999年にワークヴィジョンズ一級建築士事務所を設立。土木出身ながら建築の世界で独立し、現在は都市再生戦略の立案から始まり、建築・リノベーション・土木分野の企画・設計に加えて、まちづくりのデザインからコラボレーションスペースの運営までを徹底的に実践する。

Exhibition

展示ギャラリー

常設展示

Holland & Saga

オランダと佐賀の交流の歴史

17世紀中ごろの欧州に影響を及ぼしたオランダ東インド会社に由来する有田焼の器への輸出や、幕末維新期におけるオランダを通じた西洋の最新科学技術の導入、そして、近年のオランダデザインと佐賀/有田のものづくりの交流や、スポーツ・文化交流など、17世紀から現在、未来に続く、オランダと佐賀の交流について、これまでのコラボレーションプロジェクトと共にご紹介します。
また、「[1616/aritajapan]」や「[2016/]」といった、オランダを中心とした世界的デザイナーとのコラボレーションによって誕生したコンテンツや有田焼を展示します。(購入可)



佐賀県立九州陶磁文化館 蔵

CREEK! CREEK! CREEK!

世界に誇る水脈都市

オランダと佐賀は、ともに低平地であり「平坦」という水利事業で都市をつくりあげてきた歴史があり、まさに「近くて遠い国」です。世界に誇る水脈都市をもつオランダと佐賀の共通点や違いをヴィジュアルズでご紹介します。



企画展示

Life on the Water

水と共に暮らす

- 1 さがクリークネットの活動
2018.03.17 - 05.13
- 2 水脈都市・佐賀
2018.05.14 - 07.11
- 3 オランダの水辺レポート
2018.07.12 - 08.26
- 4 水辺を楽しむ
2018.08.27 - 10.22
- 5 水辺の未来
2018.10.23 - 2019.01.14



会期中5回に分けて、現在行われている佐賀の水辺での活動や、オランダの水辺についてのレポートなどを紹介する企画展示を行います

Artist in residence

アーティスト・イン・レジデンス & 企画展示



映像
Thessa Meijer

制作活動
2018.3.17 - 5.13
企画展
2018.5.14 - 7.11

脚本家・監督Thessa Meijerはオランダアムステルダムを拠点に活動しています。2015年に卒業制作でショートフィルム「ERHIL MIERGEN, OR WHY THE MARMOET DOESN'T HAVE A THUMB」を制作。AFF Dioraphie賞とWildcard of the Netherlands賞を受賞しました。2017年、初めての中編映画、「THE DAY MY HOUSE FELL」を監督しました。最近では、オランダシナリオ賞のZilveren Krustart賞に推薦され、AIFVFアメリカのオハイオ州で国際的に初上演を果たすこととなりました。「Nowness」で独占公開されたミュージックビデオ「MIND DEAR」は、3FM Award Best Videoに推薦され、Dutch Film Festival, IDFA、とSXSWで上映された他、Rabobank Young Talent賞も受賞しています。



グラフィックデザイン
Gilles de Brock

制作活動
2018.5.14 - 7.11
企画展
2018.7.12 - 8.14

美術監督・デザイナーであるGilles de Brockのデザインにはすべてのプロジェクトに取り入れているテーマ「メディアの境界」を知ることが出来ます。彼自身の自由な発想を実現し、付合いの長いクライアントの大切な信頼関係の中でサイケデリックな色遣いや構成をもつ作品を制作しています。ナイキ、メタヘーベス、そして最近ではレッドブルがクライアントです。Gillesは今まで考えたこともない方法で自分の思いを伝えたいと考えています。



バブルクスペース / デザイン
KCCM

制作活動
2018.7.12 - 8.26
企画展
2018.8.27 - 10.22

KCCMはKrijn Christiaansen (1978年生)とCathelijne Montens (1978年生)で結成したユニットです。二人の活動は公共空間・公共地が人々にとりどうなされるか、使われ、住まれ、変えられ、形成されるかを探求しています。彼らが注目するのは建てられた環境の物理的な面だけでなく、その環境から派生するストーリー、神話、習慣、しきたりです。セルビア、ルーマニア、インドネシア、ハンガリー、日本やアメリカ等、世界中で研究やデザインを行ってきました。また、彼らは、アムステルダムのGerrit Rietveld AcademyとハーグのRoyal Academy of Artで教鞭をとっています。



写真
Tetsuro Miyazaki

ワークショップ展示
2018.8.16 - 8.26

Tetsuro Miyazakiはベルギーと日本の血を引く写真家です。ブリュッセルで育ち、ほぼ専ら週末を日本の旅費と九州の佐賀県で過ごしています。人生のほとんども、ベルギーにいる時は自身を「半分日本人」、日本にいる時は「ハーフ」として名乗っていました。2016年、自分の経験と世界各州から192人のハーフ、一人ずつと比較してみるという試みを決意しました。結果、ハーフであることの意味を探る写真プロジェクト「Hafu2Hafu」となりました。自分以外の「ハーフ」を撮影・インタビューし、彼ら独自のアイデンティティに関する質問をシェアすることで、アイデンティティについての会話を始め、自問自答を促しました。彼は、これまで65か国の90人のハーフを撮影しています。



コミュニケーション / 造形
Victor Engbers

制作活動
2018.8.27 - 10.22
企画展
2018.10.23 - 11.9

Victor Engbers (1970年生)は多分野なアーティストです。彼の作品はインタラクティブ(対話的)なプロジェクトからパフォーマンス、彫刻、インスタレーション、グラフィックアートからライブラリと、多岐にわたります。一見とても違うように見えるプロジェクトを結びつけるのはアーティスト本人が持つ世界、特に美術の世界の新たな発見を見つけたそうとする野心からです。彼の作品は、対立し主張しながらも、人のアイデアや独自の発想を打破します。彼は当然一つの分野にとらわれないことなく、(好奇心と情熱もあり)様々な分野にも探求することを好みます。そうすると、アートの本質も探ります。しかも、この新たな視野の積極的な探求はアーティストの発見、新しいメディア、そして新しい進捗に導き、それはさらなる発見者に繋げることができます。このように、彼の作品は終わりのない探求としても捉えられ、科学、歴史、人類学や物語などもテーマとインスタレーションを見つけています。Victor Engbersはアムステルダムを拠点に創作活動を行っています。



コミュニケーション
Studio The Future

総合展示
2018.11.10 - 2019.1.14

Studio The FutureはVincent SchippenとKlara van Dijkersによって2013年に設立された、アムステルダムを拠点とする編集とデザインスタジオ・キューラー・アーティストユニット。実験的な試みにフォーカスする出版社です。我々の出版のイメージは、従来の「アイデアを公にする」という意味に戻すことで、彼らは、これまでとは違う選択を生み出し、日々の日常から入り込むことができる空間と可能性を創り出します。積極的にコラボレーションを行うことで、The Futureはインスタレーション、展示会、研究者、アーティスト・イン・レジデンス、講義、ワークショップやフェスティバルについて印刷物、雑誌、パンフレット等を出版しています。

実施プロジェクト: Fiat Lux at MoCA (JP 2018)、The Future Residency (JP 2015)、FOAM Museum Night Amsterdam (NL 2014)、Roppongi Art Night (JP 2014) など

Special Exhibition

オープニング特別展示



2018.3.17 - 5.13
Scholten & Baijns

オランダデザインと佐賀/有田のものづくりのコラボレーションで生まれた「[1616/aritajapan]」と「[2016/]」シリーズ、Scholten & Baijnsは、その両方にかかわる世界的デザイナーです。細かなリサーチにより、モノの背後に潜む文化的、芸術的コンテキストを探りながら、鮮やかな色彩と現代的な幾何学文様を巧みに使った完成度の高いデザインをお楽しみください。

最新情報・詳細はHP・Facebookをご確認ください。 HP: www.hollandhouse-saga.com Facebook: [@hollandhousesaga](https://www.facebook.com/hollandhousesaga)